

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

○委員長（佐々木春一君） これから予算審査特別委員会を開会します。

ただいまの出席委員は11人です。定足数に達していますので、会議は成立しました。

これから本日の会議を開きます。

---

◎議案第1号の質疑

○委員長（佐々木春一君） これより議事に入ります。

本委員会に付託されました議案第1号 令和2年度住田町一般会計予算、議案第2号 令和2年度住田町国民健康保険特別会計予算、議案第3号 令和2年度住田町介護保険特別会計予算、議案第4号 令和2年度住田町後期高齢者医療特別会計予算、議案第5号 令和2年度住田町簡易水道事業会計予算、議案第6号 令和2年度住田町下水道事業会計予算の順に審査し、その後、各会計予算全部について総括質疑を行います。

審査に先立ち、質疑についてお願いがございます。

発言の際には、予算書のページ、款項目及び節区分を示し、住田町議会会議規則第55条にのっとり、質疑の回数は3回以内に、また、慣例により3項目以内にとどめるようお願いいたします。

それでは、順次審査を行います。

議案第1号 令和2年度住田町一般会計予算について審査を行います。

歳入、歳出の順序で審査します。

予算書1ページから19ページ、歳入、13款使用料及び手数料までの質疑を行います。

発言を許します。

2番、荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） おはようございます。

3点伺います。

1点目、14ページ歳入、1款町税、1項町民税、1目個人1億5,243万3,000円について伺います。

まず、当町の人口は平成29年度がマイナス2.94%、平成30年度がマイナス2.74%と大体年3%減少していますが、個人の町民税は逆に、前年度比で3.2%増加しています。また、先日の年度末補正でもプラス7.5%でした。なぜ、人口減少なのに個人の町民税がふえているのでしょうか。

2点目、14ページ、1款、下の法人についてです。法人2,249万1,000円について伺います。

こちらは、人口減少率3%よりもはるかに大きく前年度比で28.2%も減少しています。また、先日の年度末補正でも20.9%のマイナス補正でした。この落ち込みの要因はどこにあるのでしょうか。

3点目、15ページ、1款町税、5項鉱産税、1目鉱産税204万円について伺います。

この項目はここ数年変動がないようですが、今後、有住地区での襲下山開発も本格化していきます。その部分はまだ入ってきていないのでしょうか。また、その部分を含めた今後の見通しはどのようなのでしょうか。

以上3点、1回目の質問を終わります。

○委員長（佐々木春一君） 税務課長、佐藤修君。

○税務課長（佐藤 修君） まず1点目、個人住民税の部分でございます。

ここ数年、やはり人口減少に伴いまして納税者数の減少は見られております。ただ、昨年、ことしと減少率が比較的少ない。例年ですと個人住民税の納税者数60人から70人ぐらいの減少であったものが、ここ一、二年20人ぐらいの減少となっております。そういった減少の部分も含めて個人の住民税の減少率が低いと、それから税額につきましては、納税者数は減っているんですが個人所得がふえているということで、ここ数年賃金等の上昇が見られている、それから営業等の所得が増加しているといったような面から増加しているものというふうに考えております。

それから法人のほうでございますけれども、法人のほうの落ち込みという部分ですが、やはり町内、法人数が余り多くないということで、ある一定の法人が金額が落ち込むと、どうしても大きな影響を受けてしまうといったような要因があるかと思えます。個々の法人についてはお答えを控えさせていただきますけれども、やはり一年一年で上下するというのが今までの傾向でございます。それから昨年、ことしと比べまして、本年度も落ち込んでいるということで、そういった落ち込みを勘案した上で、令和2年度の予算を組ませていただいているといったような状況でございます。

それから3点目の鉱産税でございますけども、今現在、襲下山のほうでは採掘してございません。ですので例年並みぐらいの鉱産税の収入を見込んでいます。来年につきましても、まだ従来の大平のほうの採掘ということでございますので、例年並みの予算を組ませていただいているということでございます。

○委員長（佐々木春一君） 萩原勝君。

○2番（萩原 勝君） 1つだけ、1点目の確認をさせていただきます。

個人の町民税に関して、増税というか、税率を上げたとかそういうことはないということによろしいのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 税務課長、佐藤修君。

○税務課長（佐藤 修君） 税率を上げたということではございません。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

4番、佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） 16ページ、8款、1項環境性能割交付金、これは多分、車とかバイクの廃棄の部分の交付割だと思うんですけども、どういったものがあるのかお伺いいたします。

次に、18ページ、13款、1項、4目農林業使用料、1節種山ヶ原体験交流センター使用料として、今までも何回も話は出てきてはいるんですけども、この使用は今までも取り組んできていると思うんですけども、今後どのような形で取り組んでいくのかお伺いいたします。

それから、19ページ、3款、2項総務手数料、3節マイナンバー制度が導入されてかなり年数がたってきてるのんですけども、この再交付について町全体では何割ぐらい再交付手続をしているのかお伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 私からは、1点目の環境性能割についてお答えをいたします。

いわゆる国の環境の基準に満たされた車に関する交付金ということになります。

○委員長（佐々木春一君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 種山ヶ原体験交流センターの今後ということでございますけれども、現在も募集は継続しております。それから町外、あるいは町内で利用の可能性ということとは相談を継続している状態ではありますが、このまま決まらない状況であれば、令和3

年が年数の関係で、今現在の利用方法が決まっているものでありますから、令和2年から県との協議等を進めてまいりたいと、要するに別な利用が可能なのかどうか、そのためにはどうすればいいか等を協議してまいりたいというふうに考えております。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） マイナンバーカードの再交付という御質問ですが、令和元年度はまだ途中ですので、ちょっと古い資料になりますけれども、平成30年度は通知カードは34件、交付カードは3件となっております。

○委員長（佐々木春一君） 佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） 環境性交割なんですけれども、町内で多分新しくしたというか、適応台数とかわかればお願いしたいかなと思います。

それから種山の件なんですけれども、県との協議という部分に入るということなんですけれども、どういった感じで県とのやりとりで使用する策というのかな、奥と県と相談するのかお伺いいたします。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 台数までは把握をしておりません。算定に当たっては軽自動車税の関係性能割から割り戻した形で算定しているというような状況にあります。

○委員長（佐々木春一君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 県との協議につきましては、どのように利用するか今現在も違う形での利用の相談もありますので、そういう新たな利用の内容をある程度決めてから協議を進めたいというふうに考えております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかありませんか。

7番、阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） 1点だけ、お願いします。

17ページの庁舎使用料について、使用料手数料の一番下の段です。

庁舎使用料で5万円を見込んでいるわけですが、マイクは小さいマイクで大分よくなったとは思いますが、いずれ大きなマイクかな、そういうののあれまで根本的に考えて、利用しやすい形を考えているのかを伺います。

○委員長（佐々木春一君） 総務課長、熊谷公男君。

○総務課長（熊谷公男君） 町民ホールの関係でございます。今年度マイクの部分を入れかえ

をいたしまして、直進性の部分で対応しております。会議の開き方の部分でスピーカーを若干調整しながらというところで現在対応しているところがございます。

御質問の抜本的な改修というところでありまして、現在のところは考えていないところでありまして。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） 阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） トイレの奥のたばこの喫煙室が今は使っていないんですが、前にも出されておりますが、休日等の利用になりますと給湯というのがなかなかうまく利用できないということがありますが、今あいているわけですが、今後の庁舎はやはり農林会館というより、利用しやすいと言いますか、来やすい面もありますし、そういう外に向けての対応策としてその活用も大事なのかなと思っておりますが、その考えはどうでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 総務課長、熊谷公男君。

○総務課長（熊谷公男君） 旧喫煙室の活用方法であります。現在のところ具体的にというものはございませんけれども、ただいま若干利用しているのは、支援物資、救援物資を置くという場所にしております。庁内でも、さまざまな活用方法については議論いただいているところですが、先ほど出ました町民ホールの音響の関係もありまして、そこだと音が立てるのは、ちょっと会議とかしてるとかなり、防音設備を取っていないものですから、結構するなという部分もありましたので、そういった音が出るような活用はちょっとまずいかなというふうな感触は持っております。何かを置くというようなことになるのかなと思っておりますけれども、具体的にはまだ決めてないところでありまして。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） 6番、村上薫君。

○6番（村上 薫君） 2点お伺いいたします。

15ページの2款地方譲与税、3項森林環境譲与税にかかわってお尋ねします。

新年度の予算2,800万ということで、前年度の倍近くふえてるわけですが、そこで森林環境譲与税というのは当然住田町に入ってくる分もありますが、例えば、都市にももちろん入ってくるわけですね。都市のほうでは、その活用の仕方について悩んでるということがあります。そこで私は都市の森林環境譲与税を町内に還元させるというか、活用するという方法を考えるべきだというふうに思っております。

例えば具体的に言いますと、幸田町とか、ある程度財政力がある住田町と連携提携してい

るようなところ、東京都の墨田区というのは、住田町と同じような語呂合いもありますから、例えばそちらに援用すると、住田町の森林環境のやっていることもアピールしながら、森林環境贈与税の都市部を町内に持ってくると、そういうやはり積極的な形もぜひ必要なんだろうというふうに思います。その辺のところ、どのように今回やっていくお考えかお尋ねします。

それから19ページの一番上のほうになります。先ほどマイナンバーカードの件でもお尋ねがありましたが、私のほうでは、ここにあります戸籍、住民関係、あるいは印鑑登録等のかかわってですけども、諸証明の平成30年度の実績見ますと、戸籍、住民票とか印鑑登録とか、発行件数は合計で7,920件、かなりあるんですね。私もびっくりしたんですが、これだけ窓口で対応してるということだと思います。

そこでですが、今コンビニの証明書発行というのが、県内ではほとんどの市、町村では紫波町とか山田町、既に実施しているわけですが、当町では、このコンビニの証明書発行というのはどのように捉えているのかお尋ねいたします。

○委員長（佐々木春一君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 私のほうからは、譲与税の部分についてお答えさせていただきます。

村上委員おっしゃるとおり、都市との交流と言いますか、都市から譲与税を出していただくというふうな活動というのは検討していかなければならない部分であるということでは捉えております。ただ具体的に今現在どうするかという部分は出てはおりませんが、まずは協定を結んでいるところ、そこの部分を検討していかなければならないのかなというふうに思っているところであります。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） 戸籍住民基本台帳の証明書の交付についてですけれども、議員おっしゃられた件数というのは郵送分も含まれております。本籍が住田にあつて、よその市町村に住んでいる方や、それから弁護士の方々からの郵便請求というのも入っております。

コンビニ交付というお話ですけれども、現在県内でも10市町村、コンビニ交付を開始されています。ただ、本町コンビニの数も少ないですし、マイナンバーカードの交付率も県内では高いほうですけれども、16%程度ということになっております。

また、マイナンバー制度が開始されたことによって、そもそも手続に住民票が必要でなくなるというものもふえてきておりますので、現時点では考えていないところです。

○委員長（佐々木春一君） 村上薫君。

○6番（村上 薫君） 林政課長のほうからは前向きな答弁をまずいただきましてありがとうございます。いずれ住田町のF S C材の例えば普及、あるいは今まで取り組んできている学校の机とか椅子とか、木製でつくったものありますね、これら、あるいは森林整備、これは横浜市と北岩手の循環共生圏という旧市町村なんです、要するに住田町の森林を整備することによって脱炭素化をやると、そういうような大きな流れが、トレンドができておりますので、住田町もやはりこういう流れの中できっちりと対応していくべきだというふうに私は思いますので、その辺を積極的にかかわっていただきたいなというふうに思います。

それから、先ほどのコンビニでの証明書発行についてですが、マイナンバーカードの発行率が16%と、県内では高いほうだよということで、私は例えばカードの発行を促進するためにも、コンビニ証明書の発行というのは有効じゃないのかなというふうに思います。これからA Iとかいろいろ出てきますけれども、そういう面でも、例えば7,000件以上窓口とか郵送も含めて対応しているというのは、それなりに職員のほうの労力といいますか、時間が取られているということだと思いますので、その面を少しでもコンビニのほうに証明書発行ができれば、働き方改革のほうにもつながっていくのじゃないかなというふうに思います。その辺の捉え方をお聞きいたします。

○委員長（佐々木春一君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 先ほど答弁させていただいたように、今現在、具体的にどういふような形でというのはございません。おっしゃるとおり、まずは森林整備という部分なのかなというふうには捉えております。

今後、検討してまいりたいというふうに思います。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） コンビニ交付がカードの発行促進につながるのではないかなという委員の御意見ではございますけれども、先ほども申しましたように、さまざまなそのような事情があります。それからコンビニ業者への委託手数料もかなり高額なものが発生いたします。それらのことから、現時点では考えていないところでもありますし、そのほかの部分としまして、マイナンバーカードを保険証にするというような動きも出てきておりますので、それらの方面からカードの発行促進に努めてまいりたいと考えております。

○委員長（佐々木春一君） これで、歳入、13款使用料及び手数料までの質疑を終わります。

次に、19ページ、歳入、14款国庫支出金から28ページ、歳入、21款町債までの質疑を行います。

発言を許します。

2番、荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 1点伺います。

22ページ、15款県支出金、2項県補助金、7目教育費県補助金、1節社会教育費補助金の説明、埋蔵文化財緊急調査費補助金253万円について伺います。

これは栗木鉄山のことだと思いますが、前年度比で183万8,000円と大きく減額ですが、その理由は何なのでしょう。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 教育次長、伊藤豊彦君。

○教育次長（伊藤豊彦君） 令和2年度の栗木鉄山事業についての補助金ということになります。今までは発掘調査、それから測量調査、出土遺物の分析調査といったかなり額がかさむ調査等を行ってきたところではありますが、新年度におきましては、国指定の具申に向けましての資料づくりが主なものとなってまいります。

それで調査委員にかかわる人件費等はこれまでどおりなんです。今度はそういった発掘調査とかいった部分がないので、大きくお金がかかるのは報告書の印刷製本費ということになる見込みであります。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 栗木鉄山の調査には、今言われたように実地発掘調査のほかに、資料収集などがあるわけですが、それに関して町の広報すみたや、住田テレビなどで創業当時の写真の募集をしていました。どの程度集まったのでしょうか。

また、栗木鉄山では銑鉄生産のほかにも鋳物工場があつて、例えば栗木の南部鉄瓶のようなものの現物が発見されれば大発見なのですが、見つかったのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 教育次長、伊藤豊彦君。

○教育次長（伊藤豊彦君） 写真につきましては、実際には新たなものは集まらなかったところでありまして、何件か問い合わせあつて、担当職員が確認にまいりましたが、本庁で所蔵していたものと同じものであつたということがありました。

それから鉄瓶の現物ということですが、現物は発見されませんでした。鉄瓶や鍋をつくる  
鑄型の残骸があったというところであります。

○委員長（佐々木春一君） 委員に申し上げますが、今の質疑は歳入でありますから、事業の  
中身等にかかわる部分は歳出の項目にもありますので、歳入にかかわるところに集中して質  
疑していただければと思います。

萩原勝君。

○2番（萩原 勝君） 歳出にかかる部分なので、ちょっとはばかれるんですけども、最後  
の質問としては、栗木鉄山は大正9年まで創業しておりました。大正9年生まれといえぱち  
ょうど100歳なので、すみた荘など高齢者施設での聞き取りや情報収集もしたらいかがか  
なということを申し上げたかったんですけど。

○委員長（佐々木春一君） 教育次長、伊藤豊彦君。

○教育次長（伊藤豊彦君） 大正9年と、今いる高齢者の方々も、長生きの方で生まれたか生  
まれなかったというあたりですので、ちょっとそれらについてはもう過ぎてしまったのかなと  
いうふうに捉えております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

4番、佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） ページ数21から23ページにかけての県の補助金の中に、地域経  
営推進費というのが何か所かありますが、この補助金の性質は何なのかお伺いたします。

それから20ページの、14款国庫補助金の4款農林業費補助金の1節美しい森林づくり  
基盤整備交付金、これはどういった中身なのかお伺いします。

もう一つは、22ページの15款、2項県補助金の中の、3目衛生費、1節保健衛生補助  
金の中で感染予防事業補助金がありますけども、先ほど教育長からも新型コロナウイルス分  
に関していろいろ規制がありましたけども、今後こういうウイルスに関して国・県ではさまざ  
まに出していますけども、町としてこれからの水際対策をどういうふうにしていくのかお伺  
いたします。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 私からは、地域経営推進費について御説明させていただきます。  
す。

これは県補助金ですから岩手県の事業でありますけれども、各市町村が取り組む地域活性  
化事業に補助金を出すというものでございます。補助金の内容によって、対応事業が一般対

応だったり目的があったりするものがあるものですから、補助金の取る項目をそれぞれの担当課の部分の各項目に取っているというような内容になってございます。

○委員長（佐々木春一君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 私のほうからは、美しい森林づくり基盤整備交付金についてお答えさせていただきます。

この内容ということでございますけども、歳出のF S Cの森整備事業、それからF S C森林認証林高齢級間伐事業、これの間伐、除間伐について国・県の森林整備事業等の補助金が入らなかったもの、この部分を対象として町の手出し分を減らすような形を取る交付金ということになります。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 私のほうからは3点目の感染症予防事業費補助金の関係でございまして、この部分につきましては、中身が地域保健従事者現任教育推進事業分ということで、新採用となりました保健師の教育にかかる経費を見るという部分でございまして、新型コロナウイルス関係とは直接関係ございません。

○委員長（佐々木春一君） 佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） そうすると、この地域経営推進費の部分に関しては、新しく例えば何かをやりたいといったときにも、こういう補助金が見えるのかお伺いいたします。

それから2点目の美しい森林づくりですけども、F S Cという部分で町からの手出しを少なくするという部分なんですけども、その中身とすればどういった部分を削減するかお伺いいたします。

それから感染症の部分では、コロナウイルスはならないというわけなんですけども、それはわかりました。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 地域経営推進費につきましては、令和2年度の事業でありますと、県のほうでは令和元年度、現在もそうですけれども、三陸復興プロジェクトにかかわるような事業とか、令和2年度であればオリ・パラ関係とか目的を持った事業を対象にする、あるいは、町が町独自で活性化のために行う事業を対象にするというような枠があって、県の補助金の枠内で市町村に配分されるというような事業であります。

○委員長（佐々木春一君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 例えばF S Cの森整備事業の除間伐、間伐につきましては、私有林の部分で国・県の補助金が入った残りの分全てを町が負担するという形に今なってございます。その国・県の補助金の対象にならなかった部分は、全て町が出すような形になってますので、その半分ぐらいをこの美しい森林づくり基盤整備交付金で交付してもらおうというような形になります。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） そのほかありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（佐々木春一君） なければこれで、歳入、14款国庫支出金から21款町債までの質疑を終わります。

次に、歳出について質疑を行います。

29ページ、歳出、1款議会費から43ページ、歳出、2款総務費までの質疑を行います。発言を許します。

1番、水野正勝君。

○1番（水野正勝君） 2点お伺いしたいと思います。

37ページの、みんなのできる町づくり事業費補助金であります。昨年の予算が210万円ということで、今回は180万円に減額になっております。ちょっと私の印象としましては、ここ数年応募する事業団体が少し減少傾向にあるのかなと認識しております。そのあたり、当局としましてはどのような御所見でありますでしょうか、お伺いしたいと思います。

2点目は、その下であります婚活支援金ということで、12月の定例会に私も一般質問のほうで取り上げさせていただいたんですけれども、こちらは、いきいき岩手結婚サポートセンター入会登録料の補助ということで認識してもよろしいでしょうか。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 1点目の、みんなのできる町づくり事業の団体が減少傾向にあるのではないかとということでございますけれども、みんなのできる町づくり事業は平成21年度から事業を行ってございます。平成21年度実績で2件でしたけれども、当初はまだ補助事業の周知も図られてないということで、当初は2件からでしたけれども、平成30年度は6件ですので、団体数としてはふえているかなというふうに思います。

傾向としては、以前は町内の各地域に住まわれている方がテーマ別に活動されるという団

体が多かったんですけれども、最近では地域の中の問題を解決するというような地域型の団体もふえている傾向があるかなというふうには捉えてございます。

それから2点目の婚活支援金につきましては、岩手iーサポの加入金と、大船渡の結婚相談・支援センターへの登録料もあわせて補助金を出すということで、どちらもということではないですが、どちらか一方をとということを選択していただいて補助金を出すというふうに新たに創設した事業であります。

○委員長（佐々木春一君） 水野正勝君。

○1番（水野正勝君） みんなでつくる町づくり事業費補助金について再質問なんですけど、まず10年近く取り組まれているということでもあります。なかなか人口も減ってきている状況でもありますので、毎年のように多くの団体が申請ということは現実的な部分を考えてもやっぱりどうしても難しくなってくるのはしょうがないところもあるかと思えます。こちらの取り組みなんですけど、初年度がまず10分の10で30万円補助ということで、まず2年目、3年目とちょっと減額しながら補助をして行っていることではありますけど、ぜひ、こういった事業は一過性になってしまったりですとか、団体のメンバーが変わったりですとか、そういった規模の縮小の可能性も少しあるのかなというふうに見ておりましたので、例えばなんですけど、新規ばかりではなく既に活動を長年されている団体に、例えば6年目ですとか9年目ですとか10年目ですとか、そういった節目で再補助ということで事業のさらなる継続ですとか活性化ですとか、町づくりに役立てていただくということもどうかと考えております。そのあたりのお考えをお聞きしたいと思います。

2点目の婚活支援金に関してなんですけども、いきいき岩手結婚サポートセンターということで、この入会登録料の補助なんですけども、入会金はまず1名2万円ということで金額になってございますけど、この補助の金額、補助率、そのあたりの詳細もし差し支えなければ教えていただきたいと思います。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） みんなでできる町づくり事業なんですけれども、10年ほど経過をしております。この間にも補助率の見直しなどを行いながら、住民の活動団体の方ができるだけ活動しやすい制度を構築してまいりました。議員おっしゃるとおり、今後人口減少の中で地域活動、小さな拠点づくりなどの地縁型の地域づくり活動に加えて、テーマ型の団体の活動も必要だというふうにごちらとしても捉えておりますので、議員の御提案については、今後検討させていただければなというふうにご考えてございます。

それから、婚活支援事業につきましては、入会登録料の全額を補助ということになってございます。

○委員長（佐々木春一君） 水野正勝君。

○1番（水野正勝君） 前向きにぜひ捉えていただきたいなと思います。

入会金の補助に関しては、大変、そういった今後婚活をされる方々にとってはすごく勇気づけられる取り組みとなるかと考えておりますので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） そのほかありませんか。

2番、荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 2点伺います。

1点目、37ページ、歳出、2款総務費、1項総務管理費、6目企画費、18節負担金補助及び交付金の説明、岩手県国際リニアコライダー推進協議会会費2万円について伺います。

そんなに大きな金額ではないんですけども、重要なので伺いたいと思います。このILC計画に関してですけども、マスコミの報道を見ますと、実際には評価がいろいろと分かれております。そこで、ILCに対する町の現状認識について最初に伺いたいと思います。

それから2点目、37ページ同じ説明のところの、まちづくり応援寄附による寄附金、交付金2,187万9,000円について伺います。

ここでいう寄附は誰からのどのような性質のもので、この寄附金は町を経由してどのような団体に交付されるのでしょうか。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） ILCの事業に対する町の見解ということなんですけれども、町としては議員も御承知のとおり、広域連携の中でILCに取り組んでいくというスタンスを取ってございます。見解という部分では、入ってくる情報は新聞、あるいは講演会というようなところの議員が知っているような情報と同じ情報のみということになります。

いずれ学術会議では余り前向きな回答は得られなかったものの、国は今後も世界各国協力してくれるところと前向きに進めていきたいという方針を新聞等でも出ておりますので、その推移を見守りたいというふうを考えてございます。

それから、まちづくり応援寄附に対する交付金ですけども、これは一般の方が住田町の

町づくり団体、先ほどの話題にも出ましたみんなのできる町づくり団体のような住民団体の  
方々が寄附制度に登録をさせていただいて、住民団体の応援をしたいというふうなふるさと納  
税で寄附をさせていただいて、各種団体にその寄附額の95%を交付をするという、町を經由  
して交付をするというような制度でございます。

○委員長（佐々木春一君） 荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） それでは1点目についてだけ伺います。

I L Cに対して当町として何か、推進会議の会費を払っているんですから、推進の方向で  
何か取り組みをされていると思うんですが、どのような取り組みをされているのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 基本的には広域の連携の中でそういう会議、あるいは講演に  
行くというような情報収集に努めながら、町が今取り組んでいる取り組みの中で将来的に I  
L C推進につながるものを進めて行くというようなスタンスを取ってございます。

○委員長（佐々木春一君） 荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 今の答弁でもありましたけれども、研修とかセミナー、こういうのに  
町の担当職員や、また町の職員も行ったたりしております。昨年12月22日に大船渡で I L  
Cセミナーがあって、そこにも参加してみました。その際、質問やアンケート、それからセ  
ミナー後のメールなどへの回答というのが県のホームページから出ると思うんですけども、  
それを見ますと、施設や入り口のある一関や奥州市の分しか書いてないんです。何となく、  
県で沿岸のほうについてはコミュニケーションが密でないのかなというような感じもします  
がいかがでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 県と沿岸部のコミュニケーションが不足しているのではない  
かというところですけども、大船渡市が積極的に I L Cの推進を担ってございます。本町  
としても何か新しい情報を得るときは、大船渡市を經由してというような形で情報収集をさ  
せていただいております。そのやりとりの中の情報を聞く限りでは、岩手県と大船渡市につ  
いては密接にコミュニケーションを取っているなというふうに捉えているところでありませ  
ん。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

3番、佐々木初雄君。

○3番（佐々木初雄君） 34ページ、2款、1項、4目、11節役務費113万1,000  
円、振込手数料90万円、公共料金支払いサービス手数料8万8,000円、その他の手数料

料14万3,000円、用途に応じて役務費をこういうふうに3つに表示されていてよくわかります。

質問というより要望になりますが、この後、49ページでは99万7,000円、75ページでは52万7,000円、85ページでは114万7,000円、役務費が手数料とだけ表示されております。振込手数料が多いと思われませんが、来年度からはある程度金額の大きい分だけでも、今の34ページのような区分けをすべきと思います。

以上、要望になりますがお願いをしたいと思います。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 34ページの会計管理費の役務費については、振込手数料というのが明確になっております。ほかの課の分の手数料には振込手数料というものは含まれておりません。ということで、手数料という形で一括に書かせていただいております。

ここについては、このような明確な振り分けがされますし、御意見は参考にさせていただきますが、手数料を細分化するとなるとかなり細かく、逆になってしまうのかなというふうにも捉えているところです。

○委員長（佐々木春一君） 佐々木初雄君。

○3番（佐々木初雄君） 今のところで質問すべきページではないんですが、この後、振込手数料とかそういう形で記載されているところもありました。さっき言ったのは、たまたま金額の大きいだけでも分けてほしいなというふうな要望でしたので。

○委員長（佐々木春一君） 6番、村上薫君。

○6番（村上 薫君） 3点お伺いします。

主要な事業のほうのページを見ていただきたいと思います。

7ページ真ん中辺になります、3点です。新しく仮設住宅のクロージングセレモニー事業、それからその下のA I - R P A導入事業、その下の、つながり創出事業の3点についてお伺いいたします。

まず、1点目の仮設住宅のクロージングセレモニーの事業ですが、現段階での構想内容についてまずお伺いをいたします。

2点目のA I - R P A導入事業についてですが、これはA I、人工知能ですね。ベテランの職員のノウハウを蓄積をして、町民からの問い合わせに即時に対応できるようにするというものだと思います。R P Aというのは、仮想的労働者、要するに人の手で行われている付加価値の低い作業をロボットで自動化すると。これも生産性向上に資するというものなわ

けですが、このA I－R P A導入事業の目的と、どの分野への導入を考えてその効果を図ろうとしているのかお聞きいたします。

それから、つながりの創出事業。今まで、定住人口であるとか、交流人口、関係人口いろいろ取り組んでやっておりますが、また新しい名称と言いますか、つながり創出事業というのはどういう中身のものなんだろうとお伺いします。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子さん。

○企画財政課長（横澤則子君） まず1点目の仮設団地クロージングセレモニーなんですけれども、御承知のとおり今年度で中上、本町団地を解散することにしてございます。それを踏まえましてクロージングのセレモニーをしたいということなんですけれども、現段階では、仮設住宅を応援していただいた民間の団体の方をお呼びいたしまして、仮設の最後の見学をする、今までの取り組みの報告をする、それから交流をするというようなことを考えてございます。

それから2点目のA I－R P A導入事業ですけれども、目的とすれば今後、現在でもそうですけれども、防災あるいは今回の新型コロナウイルスのような突発的な緊急的にやらなければならない対応策というのが出てくるというふうに考えてございます。そのための通常の業務をスリム化を図って、その時間に充てられるような環境をつくっていかなければならないということと考えてございます。

どういう分野に入れていくかということにつきましては、各自治体がそれぞれコンサルを入れて、事務の棚卸しをして、こういうものに入れていくというような取り組みをされておりますけれども、全国各地でそういう取り組みをしている報告書が公表されておりますので、本町としましてはそういうものを参考にしながら、来年度前半で選定をしていきたいというふうに考えているところであります。

この予算については、令和2年度の前半に、どういう事業に導入していくか、あるいはR P Aというものはどういうものかというようなトライアルをしながら進めてまいりたいというふうに考えてございます。

それから3点目のつながり創出事業でありますけれども、議員おっしゃるとおり、関係人口、交流人口というようなところで進めてきております。今までは関係人口ということで、町外の方を町内の方と結びつけるというような取り組みをしてきたんですけれども、このつながりについては、町内の出身者で関東圏で働いている方、都市部で働いている方の交流もさらに広げようというのが狙いでありまして、外からの住田町のかかわり、住田町出身者で外

にいる方のかかわりを広げて、全体的に住田町にかかわってくれる方をふやしていこうという取り組みでございます。

○委員長（佐々木春一君） 村上薫君。

○6番（村上 薫君） 仮設住宅のクロージングセレモニーについては今まで応援をしていただいた団体の方々をお招きしながら、見学や報告あるいは交流を進めるということでございます。

そこで私は仮設住宅は、これは住田町のそれこそ全国に代表するような後方支援の形をして、木造の戸建ての仮設住宅をやったという意味では非常に大きなものがあるんだろうというふうに思います。そこで、こういう全国に先駆けて取り組んだ、取り組みの防災上のレガシーという形での残し方をどのようにしていくかというのが大事なんだろうというふうに思います。要するに木づくりの町としての発信と、それから、こういう今後に向けた戸建て木造住宅の仮設住宅のあり方というものもやっぱり発信をし続けていくということが大事なんだろうというふうに思いますので、その辺、レガシーとしての保存とか活用を今後どのようにやっていくのか、お考えをお聞きいたします。

それからAI-RPA導入事業、新年度からということで、いろいろトライアルをしながらということでございます。いずれシステムを導入するというのは、1回やりますと、初期投資からランニングコストなどさまざまかかわってくると思うんですが、今わかっている範囲内でいいんですが、大体どのようなインシャルコストとかランニングコストというのがかかるのか把握しているのであれば教えていただきたいというふうに思います。

つながり創出事業、今まで関係人口とかいろいろ力を入れていただいて、いろんなかかわりの中で住田町もいろいろ知ってもらってるという面があると思いますので、評価をしております。そこで、今回は町内の出身者、都市部に在住をしているという方、いわゆる簡単に言えば、ふるさと住田会のような方々、町内出身のいろんな都市部に住んでる方とのつながりをもっと大事にしていきたいということですので、そうしますと今ある、ふるさと住田会みたいな組織もきちっとしておりますが、具体的にどういうふうにつながりの創出をもっと深めようとするのか、お考えがあればお聞きいたします。

○委員長（佐々木春一君） ここで、6番、村上薫委員の再質問に対しての答弁を保留し、暫時休憩します。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時09分

○委員長（佐々木春一君） 答弁を求めます。

企画財政課長、横澤則子さん。

○企画財政課長（横澤則子君） まず1点目の仮設についてですけれども、議員おっしゃるとおり、仮設の建設に関しては住田町の取り組みとしては全国に発信力のある取り組みであるというふうな認識ではおります。今年度の後半から仮設住宅の跡地の利活用などについても下有住地区を初め、デザイン会議などでも検討を始めているところであります。

今後、そのような形で関係者と今後の活用について検討を進める中でありますけれども、いずれどのような形では仮設住宅の取り組みを残すということは必要なんだろうというふうには考えているところであります。

それから、つながりの創出事業でありますけれども、ふるさと住田会との関係ということでもありますけれども、ふるさと住田会のほうの課題としては、50代以下の若い方々の会員が少ないということが悩みでもございます。今回のつながりの創出事業は、町内の方々のネットワークをつくりつつ、また関係人口などでつながった方々ともネットワークをつながりをつくりながら、令和3年度ふるさと住田会の総会があるんですけれども、ふるさと住田会のほうでも会則のほうを変えてございます。今までは町内の出身者を会員とするというふうにしていたんですけれども、今後は住田町にゆかりのあると言いますか、かかわっていただけるような方も会員に含めるというところで会則を改正する準備を今進めておりますので、今回のつながりの事業3年間で進めていくわけですけれども、2年目のふるさと住田会の総会には今回のつながり事業でつながりを持つ方々にも案内を差し上げるというような形で連携を図り、住田町の応援団をふやしていきたいというふうに考えているところであります。

A I - R P A 事業のランニングコストですけれども、やり方によって費用が全然違うというふうに捉えております。多くの自治体がいわゆるコンサルティングからR P A のソフトを入れて導入するという形を多く取っておりますけれども、小さい自治体では1つの事業から、できることから少しずつやっていくというふうに進めているところもあります。本町がどちらの方法を取るのかは令和2年度の前半で検討したいというふうに考えておりますので、イニシャルコストも含めて検討を進めてまいりたいというふうに考えているところであります。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

7番、阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） 主な事業のほうでお願いいたします。

最初に7ページの総務費、新事業で公共料金一括支払システム導入事業とありますが、今までも口座引き落とし等のあれはあるんですが、この新システムというのとはどのような形で事務利便性が図られるのかお伺いいたします。

それから、その下の住民交流拠点施設管理事業ありますが、これは指定管理委託料だと思いますが、過日、一時休業を再開しておりますが、この中で交流人口の集客の減少が大きく取り上げられておりますが、そういう管理上の見込みを町ではどのように捉えているのかお伺いいたします。

それから、めくっていただきまして地域情報通信基盤整備事業、その下の策定プランというのがありますが、今後の計画だと思われませんが、この中で住民参加型の番組といいますか、そういうものの捉え方をどのように考えているのかお伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 税務課長、佐藤修君。

○税務課長（佐藤 修君） 私のほうからは、1点目の公共料金一括支払システム導入事業について御説明をさせていただきます。

これにつきましては、直接住民の公共料金という意味ではございませんで、役場の中で公共料金等支払い、実際に役場のほうが支払う業務を今までそれぞれ各課のほうで処理していたものを一括処理をすることによって業務を見直すという形で、業務軽減を図るというシステムを導入するものでございます。

○委員長（佐々木春一君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 住民交流拠点施設の管理上の見込みということですが、なかなか人が入ってきていない状況には、減ってる状況というのはそのとおりなんですけれども、経営について専門家をお呼びして、診断をしてもらったりしている活動をしております。そのような中で、今後よりよい経営にしていく努力を進めていくものというふうに捉えております。

以上です。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 地域情報通信基盤整備事業の中のアクションプラン策定にかかわってですが、このアクションプランにつきましては、地域情報通信基盤事業が10年以上経過をしまして、専門家を入れた検討委員会を入れて、報告書を提出いただいたと

いう経緯は御承知のところだと思います。その報告書を踏まえて、今後どのようにアクションをしていくかという計画を立てるのがこのアクションプランの策定の内容でございます。

委員の方から、住民参加型のテレビについてという御質問でありましたけれども、現在住民参加型のテレビについては、ねんぷにやっぺしの会の方々が放送しているわけですが、住民が住民の活動を取材をして発信するということが意義があるというふうにこちらとしては捉えておりますので、今までどおり、ねんぷにやっぺしさんのほうで住民番組を投稿したいというところについてはチェックをしながら放送を継続していくという考え方であります。

○委員長（佐々木春一君） 阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） 2点目の住民交流施設についてだけ伺います。

指定管理料をそのとおりに払われるわけですが、前にもそういう収支の状況等がありました。こういう場合に例えば赤字になったというときの責任は当然SUMICAにあると思うんですが、そういうのと指定管理の影響というのは何かありますか。

○委員長（佐々木春一君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） レストランの部分とかですけれども、収益事業に関しては指定管理料にはかかわらないということになりますので、今回レストランについては再委託ということにはなっておりますけれども、指定管理料には影響しないというふうに捉えております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかありませんか。

4番、佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） 主な事業の中の7ページの住民活動支援交付金、金額が2,180万円弱あります。どういった中身で活動しているのかお伺いたします。

それから、その下の中心地域・中心商店街活性化事業150万円ぐらいありますけれども、これについてもどんな中身で活動していくのかお伺いたします。

以上2点です。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 住民活動支援交付金につきましては、先ほど2番議員からも御質問があったまちづくり応援寄附による寄附金の交付金というのと同じことで、住民活動団体に対して、ふるさと納税で寄附があったものを交付するという制度でございます。

それから中心地域・中心商店街活性化事業につきましては、こちらはデザイン会議の費用になります。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） 佐々木信一君。

○4番（佐々木信一君） ふるさと納税の部分から団体が何団体あって、その団体の分に活動をするという部分で支払われると思うんですけども、何団体ぐらいあるのかお伺いします。

中心地域活性化の事業に関しては、今、商店街も大分あいてきていますが、商店の部分で今後起業するとかそういう団体が町内外から来ているのか、いないのかお伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 住民団体につきましては、10団体ほどだったというふうに、後で確実な数字を報告いたします。

それから中心地域の関係ですけれども、中心地域活性化構想につきましては、今年度が最終年になります。令和2年度以降中心地域活性化の事業をどうしていくかというのを検討になるかと思っておりますけれども、具体的な商店街の活性化についてどう取り組んでいくかというところは、全体的なプランニングはそこで検討されると思っておりますし、その具体プランについては商工観光係で推進していくというような流れになろうかと思っております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（佐々木春一君） これで歳出、1款議会費から2款総務費までの質疑を終わります。

次に、43ページ、歳出、3款民生費から55ページ、歳出、4款衛生費までの質疑を行います。

発言を許します。

1番、水野正勝君。

○1番（水野正勝君） 令和2年度の主な事業の民生費、9ページの民生費の放課後児童健全育成事業についてであります。

前年度よりもこちら増額ということになってるかと思うんですが、こちらは放課後児童支援員の増加ということで捉えてよろしいでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 教育次長、伊藤豊彦君。

○教育次長（伊藤豊彦君） 放課後児童クラブの運営費補助金の部分になりますが、これは支援員の増加というよりも、国の基準等も変わっておりますので、そういったことでいろいろと対応できる職員等、増加だけでなくいろいろな割り振りできるという部分で事業費も大きくなったところであります。

○委員長（佐々木春一君） 水野正勝君。

○1番（水野正勝君） この案件も12月の定例会で取り上げた分野でありますけども、まず現場の声としましては、今度のこの令和2年度から世田米学童クラブさんで受け入れる児童の数が過去最大の確か50名ほどの人数になるということで伺っておりました。また、現状の支援員さんですとか補助員さんの数というのも決して余裕があるわけではなくて、まず何とかやりくりしながら対応しているというお話でありました。

子供の安全ですとか、こういった子育ての面では非常に今後もこの学童というのは注目されていく分野なんだろうと思われまます。引き続き万全の、できる限りの当局の対応をお願いしたいと思えます。

以上であります。

○委員長（佐々木春一君） 教育次長、伊藤豊彦君。

○教育次長（伊藤豊彦君） 実質的な増というのはこれから児童に対応した部分でクラブのほうで考えていくこととなりますが、今のところなかなか人員確保が難しいというのは、保育園と同様のことでありますので、現在の人員が割り振りしながら進めていくということになりますし、できればそういった割り振りの部分を少しでも負担を減らすような形で恐らく募集していくものと捉えております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

ここで、企画財政課長より先ほどの、4番、佐々木信一委員の質問に対し、保留した答弁の申し入れがありましたので、これを許します。

○企画財政課長（横澤則子君） 住民団体の交付金の団体数でしたけど、先ほど10団体というふうに答えたんですが、11団体の誤りです。訂正いたします。よろしく願いいたします。

○委員長（佐々木春一君） そのほか。

2番、荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 2点伺います。

1点目、46ページ、3款民生費、1項社会福祉費、3目老人福祉費、7節報償費の説明、老人ホーム入所判定委員謝礼6万円について伺います。

この判定委員はどのような方が何人ぐらい選定されるのでしょうか。また、その判定はどのような基準、どのような内容なのでしょうか。

2点目、47ページ、3款民生費、1項社会福祉費、5目交通対策費、13節委託料の説

明、コミュニティバス運行委託料について伺います。

4月に川口上有住駅線の役場始発が加わってから約1年になります。八日町遠野線と合わせ、全体的な利用状況はどう変わってきたのでしょうか。また、枝線での利用率の低い線についてどのようにお考えでしょうか。

以上2点、1回目の質問を終わります。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 私のほうからは、1点目の老人ホーム入所判定委員の謝礼についてお答えを申し上げます。

この事業は65歳以上の高齢者で身体とか精神に障害がある方、それから、あるいは住居環境に問題があるなどで在宅生活を継続することに支障がある方を養護老人ホームのほうに措置する事業が、老人保護措置というのがあるわけですが、そういった方々の入所処置の適正化を期すということで、入所の判定委員会を開催をして、可否を判定するものでございます。事前に地域包括ケア会議のほうで検討をした後に、入所判定委員会のほうに判定を依頼するということになります。

委員ですが、管内の医師が2名、それからすみだ荘の施設長、大船渡保健所長、そのほかに行政のほうから福祉の担当者が参加をしまして、5名で判定会議を開いていくというものでございます。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） コミュニティバスの利用状況につきましては、川口上有住駅線、八日町遠野駅線ともに年々減少している状況であります。川口上有住駅線につきましては1便当たり3人程度、八日町遠野駅線については1便当たり5人程度の利用となっております。

それから、利用の低い枝線についてということでもありますけれども、地域の公共交通を考える上で利用率というのは非常に重要であると思っておりますけれども、コミュニティバスの目的とするところは住民の移動の足の確保でありますので、総合的に考えていかなければならないと考えております。

○委員長（佐々木春一君） 荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） それでは、2点目についてだけ伺います。

今年の10月、住田高校から大股中井間が実質的にはバス空白区間となります。現状の買い物ツアーの取り組み等ありますが、ほかにも代替策を検討する必要があると思っております。町

のコミュニティバスの大股地区への運航もその選択肢の1つだと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） 民間路線バスの来年度9月末の中井線につきましては、路線廃止ということで伺っております。民間業者では便数を調整して10月1日より大船渡住田高校間での、新系統での運行を予定しております。

大股地区の空白となる地域については、その代替として住田町のコミュニティバスの運行の方向で検討を進めているところであります。

○委員長（佐々木春一君） 荻原勝君。

○2番（荻原 勝君） 2点目について3回目です。

それでは、その町のコミュニティバスですけれども、さらに世田米の沢も含めた町全体に展開するお考えはあるのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） コミュニティバスの世田米の運行というところでありましてけれども、現時点では考えておりません。住田町、町内の地域公共交通を考える上でコミュニティバスは1つの手段でありますので、そのほかの手段を含めて総合的に考えていかなければならないと考えております。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

3番、佐々木初雄君。

○3番（佐々木初雄君） 2点について伺います。

47ページ、3款、1項、5目、7節交通指導員報酬費147万円について伺います。

交通指導員の定数は今何名で、現在の会員数は何名なのでしょうか。

それから2点目について伺います。

55ページ、4款、2項、2目、18節の負担金1,654万5,000円、30年度決算では1,341万5,000円、31年度の当初予算では1,372万8,000円ですが、気仙広域で処理しているわけですが、大きく増額になっている要因は何なのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） 交通指導員の定数ですけれども、12名以内というふうに定められております。現時点では8名となっております。

それから55ページの負担金の関係ですけれども、沿岸南部広域環境組合で稼働から10

年目という年度に当たっております、大規模改修が予定されております。その部分で大幅に増額したと捉えております。

○委員長（佐々木春一君） 佐々木初雄君。

○3番（佐々木初雄君） 12名以内の定数で現在8名ということでございますが、ここ何年か補正予算で減額になったり、あるいは決算の時点で不用額で処理されているわけですが、交通安全意識の高揚のためにも定数どりの隊員を確保に向けて募集に努めていただければと思います。

それから2番目についてですが、人口減少が進んでいるのと、地方過疎の設置も年々進んでいると思われま。し尿処理をされている量目というのはどのように変化しているのかお伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） 初めの交通指導員の関係ですけれども、12名以内ということで最近補充がないというお話ですけれども、住田町の人口も減少しておりますし、それから働きながら指導員の皆さんが活動していただいているということもございます。

それで令和2年度から会計年度職員の導入に伴って、交通指導員の身分も変わってきます。その身分が変わるとともに交通指導員の活動についても無理のないような、例えば大きな事業のときは民間のガードマンなりをお願いするなどして、工夫しながら無理のないような活動をしていく方向で検討しなければならないと考えています。定数の見直しも場合によっては必要になってくるかと考えています。

それから先ほど沿岸南部のことをお答えしましたけれども、委員御質問は、し尿処理の気仙広域連合の清掃費ということであるかと思えます。大変申しわけありませんでした。

し尿の量につきましては、やっぱり人口減少に伴って減少しているという状況があります。ただ、例えば仮設住宅を閉鎖するよなときの浄化槽の処理ということで一時的に上がるといったことはありますけれども、全体的には少しずつ減少しているという状況と捉えています。

○委員長（佐々木春一君） よろしいですか。そのほかありませんか。

7番、阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） 1点だけ、主要事業でお願いいたします。

9ページの衛生費、保健医療介護連携体制構築事業補助金とありますが、これはどのような団体に交付されるのでしょうか、お伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 保健医療介護連携体制構築事業費補助金、どのような団体に交付されるのかという御質問でよろしかったですでしょうか。

これは、未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」のほうの運営費の補助金というような形で交付をするものでございます。

○委員長（佐々木春一君） 阿部祐一君。

○7番（阿部祐一君） もう一点だけ、財源内訳を見ますと、これは地方税というあれになっておりますが、国から来るものではないわけですか。補助金の出方をお伺いいたします。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） これにつきましては過疎債を導入しまして、起債でやるというものでございまして、国から来る補助金でやる事業ではございません。

○委員長（佐々木春一君） 6番、村上薫君。

○6番（村上 薫君） 3点お伺いします。

まずは2番委員が質問しました公共交通対策、大股方面への大股、大船渡、中井線が9月末で廃止になるということで、先ほどの答弁ではコミュニティバスを考えているということで、大変私も安堵したのですが、9月末で廃止になるということですから、そうしますと10月から町のコミュニティバスを動かしていただけるように、まず足の確保をお願いをしたいと思います。

そこの1点確認をいたします。

それから2点目は、未来かなえ機構の主要な事業のほうの衛生費の9ページ真ん中辺にありますけれども、未来かなえネットについては今年の4月から気仙・両磐の医療圏、それから岩手中部の医療圏、北上、遠野市が接続をされて、手続が、治療のほうに期待が高まっているわけですが、重症となると中央病院とか、あるいは医大のほうも矢巾のほうに来ましたので、医大との連携というのが大事になってくるわけですが、これらへの接続というのは計画にあるものかどうかお尋ねをいたします。

3点目です。その下のほうの先ほど7番委員からもありましたが、保健医療介護の「すみちゃん」の件ですが、この補助金につきましては、予算的には昨年度の補助金額は2,200万円、令和2年度は1,800万円ということで、以前にこの運営にかかわってお尋ねをしたときに、将来的に補助金をゼロにして収支がこの事業の中で取れるように持っていくということが理想だということでした。これは当初の計画どおりにそういう形で進めるものかどうか、お尋ねいたします。

○委員長（佐々木春一君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） コミュニティバスの大股方面への運行につきましては、10月からの運行開始に向けて地域の方々への説明や、物品の購入、それから地域公共交通会議での合意形成、条例改正など進めてまいりたいと考えています。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） まず、私の方からは1点目の未来かなえ機構のICTの関係でお答えをしたいと思います。

委員おっしゃいますとおり、最終的には全県統一というようなネットを組みたいというところがございますけども、現在のところ当町にかかわる部分で言えば、未来かなえネットと、あとは岩手中部ネットの連携が行われているところで、盛岡のほうまでの連携というところには現在のところはなっておりません。ただ将来的には、全県統一したネットが組めるような形でということで取り組みを進めていこうとしているところでございます。

それから2点目の未来かなえ訪問看護ステーションの「すみちゃん」の関係でございますけども、おっしゃいますとおり昨年よりも補助金額少なくなってきてございます。将来的に、やはりいつまでも補助金を出すということは想定しておりませんので、独立採算でできるようになるように、現在のところ毎月私どもと「すみちゃん」の施設長、それからあとは未来かなえ機構の事務局と三者で前月の実績を検討会をしながら、どういう課題を解決していったらいいかというようなことで話し合いをしながら、なるべく早くにひとり立ちできるような形になるようにということで取り組みを現在検討をしているところでございます。

○委員長（佐々木春一君） 村上薫君。

○6番（村上 薫君） 大股方面へのコミュニティバスにつきましては、よろしく願いいたします。

かなえネットについてですが、将来的に全県でやっていく方向で頑張っていくということでよろしくお願ひしますが、それで、かなえネットの加入率についてです。気仙管内では、住田町は34%を超えています。大船渡市は15%、陸高は19.6%となってるわけですが、当町の場合で当初目指してるのは50%を目指すということであったわけですので、いろいろお話を聞きますと若い世代や子供さん方の加入率がどうしても伸びないんだということでした。対策を何かお考えなのかどうかお尋ねいたします。

訪問看護ステーションの「すみちゃん」については、いずれ独立採算制が取れるようにぜひ頑張っていたきたいなど、これは希望しておきます。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） ネットの加入者につきましては、私どものほうも、先ほどおっしゃいましたとおり50%というところを目標に現在取り組みをしているところです。

さまざまな場面で申し込みの呼びかけをしたりしまして、例えば産業まつりのような場面ですとか、文化祭とか、そういう場面とかいうようなことで出店をしまして呼びかけをしている部分もございますし、あとは若年層なりということもございますが、その部分については、産科オンライン、小児科オンラインというような取り組みも未来かなえネットのほうとタイアップしながらやっておりますので、例えば妊娠届とか、そういうことにいらっしゃったときに産科オンライン、小児科オンラインへの参加を促しながら、ネット加入についても紹介をしながらといったことで、若年層の参加についても奨励といいますか、勸奨といいますか、そういう取り組みをしているところでございます。

○委員長（佐々木春一君） 村上薫君。

○6番（村上 薫君） 最後になりますが、今、かなえネットのほうの産科オンライン、小児科オンラインこれ非常に若いお母さん方にとっては心強いものだなというふうに思いますが、利用率というのはどの程度町内でされているのでしょうか。

○委員長（佐々木春一君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 現在のところ、うちのほうは子供が生まれる数も少なく、結局妊婦さんも少ないということもございますけども、登録してる方々は数名いらっしゃるということで、今利用した結果が大船渡病院のほうにバックになるような、こういう相談がありましたというようなことで、バックになるようなシステムまでつくってございまして、実際に相談なり何なりが数件ありますというようなことは聞いてございます。

○委員長（佐々木春一君） そのほかございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（佐々木春一君） これで、歳出、3款民生費から4款衛生費までの質疑を終わります。

---

#### ◎散会の宣告

○委員長（佐々木春一君） お諮りします。

本日の会議はこれで散会としたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（佐々木春一君） 異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで散会することに決定しました。

本日は、これで散会します。

御苦労さまでした。

散会 午前 11時46分